

CAROWAA

CAROWAA —ちやろわ

アチョリの言語で「our village」「our home」「our land」といった意味を持つ言葉です。

JICAプロジェクトとともに自分たちの故郷がより発展する、という気持ちを込めて、グルオフィスの現地スタッフが名づけてくれました。

ちなみに配色イメージは北部らしく「ラテライト」です。



JICAグルオフィス 軌道に乗ってきました！

1980年代から2006年頃まで20年以上にわたる政府軍と武装勢力による紛争が続いたため、200万人以上とも言われる国内避難民が生じたウガンダ北部地域。JICAグルオフィスは、緊急の人道支援フェーズから復興支援フェーズへの移行期にある同地域に対して切れ目のない支援を実施することを目的に、2009年8月、ウガンダ北部復興支援プログラムの活動拠点として新規に開設されました。

フィールドオフィスは首都カンパラから北へ330km(東京—名古屋間とほぼ同距離)離れたグル県グル市にあり、さらに100km北上すればスーダン国境となる場所に位置しています。グル市の標高は1100m前後で、カンパラよりも標高は低く、また熱帯乾燥気候であるスーダン国境にも近いため、気候はカンパラと比較するとかなり違っており、特に乾季の間は暑さと乾燥がととても厳しい場所です。



10月に平井プログラムマネージャー、上田企画調査員が着任してあっという間に3ヶ月が経過しました。本来であれば、もっと早い段階から現地情報を発信すべきところでしたが、今後は復興支援のスピードに併せてタイムリーに情報共有をしていきたいと考えています。JICAがこの地域で協力を実施するのは初めてということもあり、立ち上げ時点はほぼゼロに近い状態からのスタートで、はじめはひたすら執務環境整備のための備品調達に首都カンパラまで走り回ったり、頻繁に起きる停電や十分とは言えない通信環境状態の中での業務に慣れるまで一定の時間を要しましたが、ようやくフィールドオフィスとしての執務環境も整いオフィス業務も軌道に乗っています。



JICAグルオフィス前にて全員集合



ルリヤンゴ村でのワークショップの様子
(コミュニティ開発チーム)

現在グルオフィスでは、北部復興支援プログラムのエントリーポイントとして2件の開発調査型技術協力「アムル県総合開発計画策定支援プロジェクト」「アムル県国内避難民のためのコミュニティ開発計画策定支援プロジェクト」を軸とした協力を展開中であり、今後短期間のうちに北部地域全体へ復興支援プログラムを拡大・展開していくための足場作りを行っています。さらには、国内避難民の帰還・定住促進に必要とされる道路・橋梁を中心とした生活基盤整備を行うための平和構築支援無償資金協力による事業、将来の北部地域の経済発展に不可欠なスーダン国境まで繋がる基幹道路整備のための円借款事業等のフォローも含めて、ウガンダ北部復

興支援プログラム全体の企画・調整・実施促進等を行っていく予定です。

北部に対する復興支援プログラムのエントリーとして開始した2件のプロジェクトの緊急パイロットプロジェクトの準備も着々と進んでおり、加速する国内避難民の帰還・定住の早さに遅れないようスピード感を重視しつつ、パイロットプロジェクトを通じて目に見える成果も同時に発現しながらウガンダ北部地域への協力を展開していきます。

来訪者も増えつつあり、今後ますます忙しくなることが予感されますが、ウガンダ北部に対するJICA事業の拠点となるフィールドオフィス機能の強化を着実に図って行きたいと考えています。ナショナルスタッフ、コンサルタントチーム共々頑張りますので、関係者の皆様方から様々なアドバイス等を頂けることを期待しています。

アフリカ部より調査団グル来訪

1月11日～12日、JICAアフリカ部より畝審議役を団長として、TICADIVフォローアップ室・宮本さんと、ウガンダ事務所より七海所員がウガンダ北部復興支援プログラムの進捗確認のため、グルを訪れました。JICAグルオフィス、初の調査団受け入れです。

畝審議役は北部復興支援プログラム、“火付け役”の一人でもあり、アチョリ地域への復興支援の思い入れは大変なものがあります。2件の開発調査型技術協力パイロットプロジェクトのサイトを精力的にまわり、昨年、協力準備調査で現地入りした時からの変貌に



グル大学IPSS (Institute of Peace and Strategic Studies) 関係者と連携の可能性について議論した。

驚いた様子でした。特に、緊急パイロットプロジェクトとして、公共サービスホール、職員宿舎の建設が予定されているアムル県パボサブカウンティでは、多くの国内避難民がサブカウンティの公共用地に居住していたため、かなり大規模な住民移転の必要がありましたが、コンサルタントチームの協力もあり、昨年12月移転がすべて完了しました。畝審議役によれば、ハット(北部地域の伝統的な家屋)がひしめき合っていた場所が、見渡す限りの更地になっていた風景には感動すら覚えたとのことです。

実はグル訪問は2回目というレアな経験を持つTICADIVフォローアップ室・宮本さんもグル周辺のキャンプの変容ぶりに大変驚いたそうです。北部のローカル食も堪能し、TICADニュースレターなど、広報に活用できそうなネタをたくさん仕入れてくれたことと思います。畝審議役、貴重なアドバイスとともに宿題をたくさんありがとうございました。



立ち退き前(2009年8月)



立ち退き後(2010年1月) ハットが壊され更地に。

2月の予定

・2/15～20
国際開発ジャーナル・中坪氏 グル取材(3回目)

<総合開発チーム>

- ・マスタープラン策定
- ・緊急パイロットプロジェクト契約・工事着手

<コミュニティ開発チーム>

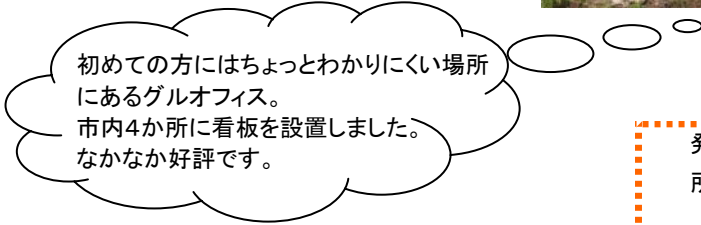
- ・緊急パイロットプロジェクト入札
- ・コミュニティ開発モデル策定

<平和構築支援無償>

- ・対象案件の基本設計



JICAグルオフィスニュースレター、ようやく第1号ができました！
これから2週間に1度の発行を目指して、グルのみならずウガンダ北部の情報を発信していきます。
コメントなどありましたらぜひお聞かせください。(ueda.megumi@jica.go.jp)
「北部のこんなことが知りたい！」といったリクエストもお待ちしています。



初めての方にはちょっとわかりにくい場所にあるグルオフィス。
市内4か所に看板を設置しました。
なかなか好評です。

発行：JICAグルオフィス
所在地： 6A Samuel Doe Road, Gulu, Uganda
Phone: +256-(0)392 900158